科目ナンバリング		U-LAS00 10001 LJ34							
授業科目名 <英訳>	哲学 I Philosophy I			担当者所属 職名・氏名	文学研究科 教授 杉村 靖彦				
群	人文・社会科学科目群		分野(分類)	哲学・思想(基礎)		使用言語	日本語		
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義(対面授業科目)		
開講年度・ 開講期	2025・前期		曜時限	木5		配当学年	全回生	対象学生	全学向
【授業の概要・目的】									
テーマ：日本語で哲学すること テクストからの京都学派の哲学入門									
<p>西田幾多郎(1870-1945)に始まる「京都学派」の流れは数々の独創的な哲学者を産み出したが、その歩みは、西洋哲学の概念や思考法の創造的受容を担うべき新たな日本語表現の形成と一体であった。そのことに着目しつつ、彼らが何をしようとしていたかを体感してもらうために、本講義では、「テキストからの京都学派の哲学入門」を掲げる。</p> <p>具体的には、おもに西田幾多郎と九鬼周造をとりあげ、その哲学著作だけでなく、随筆、日記、短歌、詩など、二人が残した多様な文章を紹介し、それらを実際にも読むことを通して、彼らの思想表現の苦闘に同行してみたい。これによって、思想内容の簡便な要約では得られない、京都学派の哲学への生きたかたちでの入門の機会を提供することを目指す。</p>									
【到達目標】									
<ol style="list-style-type: none"> 1. 京都学派の哲学の種々の思想表現を通して、哲学的思考の生成過程に同行し、その基本的姿勢を体感的に理解する。 2. 哲学・思想を展開するテキストを実際にも読み、それをさまざまな角度から解釈する仕方を学ぶ。 3. 思想的な事柄を日本語で表現する営みの歴史の一端に触れ、自ら自身の思考を言葉で表現する際の糧としていく。 									
【授業計画と内容】									
第1回 導入(授業の性質や狙い、進め方についての説明) 第2回 「京都学派の哲学」とは? 全般的説明 第3回 西田幾多郎の哲学テキストを読む 第4回 西田幾多郎の哲学テキストを読む 第5回 西田幾多郎の随筆を読む 第6回 西田幾多郎の随筆を読む 第7回 Interlude: 短歌と京都学派の哲学 第8回 九鬼周造の哲学テキストを読む 第9回 九鬼周造の哲学テキストを読む 第10回 九鬼周造の随筆を読む 第11回 九鬼周造の文学論を読む 第12回 日本語で哲学すること 西田と九鬼の対比から 第13回 西田哲学の可能性の継承 木村敏の例から 第14回 九鬼哲学の可能性の継承 坂部恵の例から 第15回 フィードバック (詳細は諸条件により変更の可能性有り)									
----- 哲学 I (2)へ続く -----									

哲学 I (2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

2、3回に1回の割合で授業の最後にもらうレフレクションシート(25点)、および学期末レポート(75点)により、到達目標の達成度に基づき評価する。
レポートの詳細は課題発表時に告示する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

授業で扱うテキストや授業時の配布資料は、あらかじめPandAにアップロードするので、事前に一通り目を通しておくこと。授業後は、自身の関心に従って、扱ったテキストを中心に関連文献を読み進めてほしい。

【その他(オフィスアワー等)】

履修および単位取得に関して不明な点などあれば、いつでもメールで質問してください(sugimura.yasuhiko.2v@kyoto-u.ac.jp)。